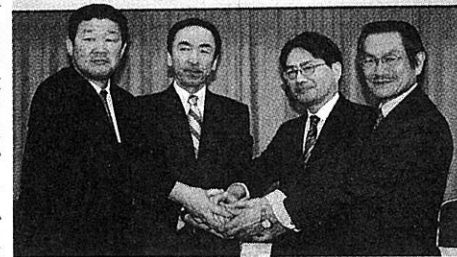


# 『ACKグループ、PCIG 共同出資会社が船出-インフラ輸出の案件形成に注力』

## 共同出資会社が船出 インフラ輸出の案件形成に注力

ACKグループ、PCIG

設立 記者発  
InterAct  
CKグループ・パシフィックコンサルタンツグル



左から長谷川社長、千葉社長、八島代表取締役社長、廣谷社長

を行う予定。売上高は5年後に数億円、10年後に数十億円を目指す。

廣谷社長は新会社について、「事業の代表者、遂行者として大きな役割を担ってほしい」と述べた上で、「世界のトップコンサルと競争するには、こちらもそれに見合う規模になる必要があった」と協業化の背景を説明し

た。長谷川社長は「ACKグループは海外の実績が豊富だ」と優位性を強調し、「税収減、人口減で国内の市場は厳しくなる。海外に打って出るのは必然」と語った。  
千葉社長は「日本企業はパッケージには不慣れな面もある。調整能力を発揮し、コンサルト発の事業形成者になる」、八島会長は「若い人材に世界のリアルなニーズにタッチする道筋を付けた」と抱負を述べた。

ACKグループとパシフィックコンサルタンツグループ(PCIG)が折半出資する新会社「InterAct」(東京都新宿区)が1日発足し、両グループの社長と、新会社の首脳陣が東京都内で記者会見した。InterActは、両グループの経営資源・ノウハウを融合し、国内外の民間企業による海外事業のコンサルティング、事業運営などを手掛ける。事業者となることも想定している。  
会見で長谷川伸一PCIG社長は「人材、実績は総勢10人で、新規採用

社長をACKグループの千葉俊彦氏、代表取締役会長をPCIGの八島雄一郎氏が務める。サービスの提供者と投資側それぞれのアドバイザーや、事業全体のコーディネーターとして、海外事業をターゲットに案件形成を進める。アジアに旺盛なインフラ需要がある中、日本政府がパッケージ型インフラ輸出に力を入れているのを追い風に、事業の拡大を図る。  
事業者となる場合は、両グループの信用力を担保にしたり、プロジェクトごとに資金を調達したりする方針。現在の人員